

令和6年度 市政懇談会 2回目

- ・日 時 令和6年11月23日(土) 10時00分～12時10分
- ・場 所 志度公民館 大ホール
- ・出席者 市長、副市長、教育長
自治会長等45名、傍聴5名
事務局
市民部長、生活環境課長(司会)、生活環境課担当
- ・議 題 (1)市政報告(資料1)
(2)市政への提案・意見等について(資料2)

開催にあたり事前に各自治会から市政全般、地域に共通した内容の市政に対する提案や要望等を募集し、事務局でテーマごとに意見・要望及び回答を取りまとめ資料として参加者に配布した。

時間の関係上、全ての要望等に対する回答は書面として行い、市の課題や広く市民に関係する要望等について市長が回答した後、参加者との意見交換を実施した。

市長の回答及び意見交換の内容は次のとおり

高校・大学について

○市長報告

さぬき市内には、私立高校で藤井学園寒川高校が寒川に、県立高校で、志度、石田、津田、3高がある。県立高校なので、さぬき市がああしろ、こうしろというようなわけにはいかないが、市民の皆さん、子どもさんに、非常に関係があるということで、かつては知事さんとか、県の教育長さんにいろいろなお話をし、特にコロナ禍であったので、急いで新しい統合高校を作る必要はないのではないかというような議論をしてきた。県議会の方で最終的に決まって、最初は令和10年の4月に、造田駅から南に行った下所という地域があるが、そこに3つを統合した学校を建てるのが県で決まった。ただ、その後の調査の結果、土地の地盤をもう少し強化する必要があるということもあり、今は令和12年の4月1日に開校する予定で進んでいる。そして、統合の方法としては、令和12年4月1日には、今の3校にいる新しく3年生になる人は3年生として令和12年4月に行く。同じように2年生も行く。それで、新たに入ってくる人については、統合高の初めての入学試験をして入るようになる。ですから、それぞれの高校に一部残って、行くのではなくて統合の時点で行くようになる。そういったことが、市民の皆さんの間でいろいろな御意見があり、まずは3つの高校、それぞれの歴史と伝統があるのに、その素晴らしいことを一塊にしてできるのかということ、県教委と私どもが入った開校準備委員会という所で議論をして、どのような特徴のある学校にするのか、そういうことを、今も継続している状況である。それから、徳島文理大学については、特に志度の文理大周辺の方々に影響が大きいということで、大学の場所が大学の方針で、高松で校舎を持たないと生徒が集められないと最終的には移転が決まった。ただ、来年の4月に移転するが、今ある校舎、今持っている文理大の土地、これをどうするのかというのが大問題としてあり、今まで、文理大と市も協議をしてきた。なかなか、文理大としては、志度キャンパスも、高松の学校の関係者が使うということで、今までやりとりをしてきたが、大学側

の考えがなかなか変わらなかった。ただ、この3月に、理事長さんがお変わりになった。残念な事に、亡くなられたのだが、息子さんが新しい理事長さんになり、この4月から仕切り直していろいろな話を進めている。志度キャンパスがあまりに大きくてもったいないので、何とか使い方を考えようということで、まずは、中四国の消防の緊急援助隊の合同訓練をした。第三土場や、鴨部のちょっと奥にあるグラウンドで、何らかで使うことを、具体的に今まだお知らせはできないが、検討しているので、何らかの形で企業等を誘致したい。そういったことは、今後できるだけ早く進めていきたい。肝心なのは、校舎が非常に大きいので、例えば、どこかの会社が来るといっても大きすぎるので、分割をするような形を大学に提案して、決まった所で一部分でも、企業さんに来てもらう。また、教育関係とか、医療関係が来てくれたら、来てもらう。そういう話を、段階的にしているということが今の状況である。大学の方も、さぬき市に非常に影響があるということと、大学自身も、いろいろな状況が変わっているんで、できるだけ有効に使いたい気持ちが以前よりは増してきていると私は感じているので、そういう意味では、今はチャンスではないかと思って今まで以上に積極的に取り組んでいく。雑ばくな説明になったが、高校・大学の現状等については以上とさせていただきます。

○意見なし

1 防災対策について

○市長回答

防災対策について、地震はいつ来るか分からない。今こうしている間に来るかも分からない。そういう意味では、事前に準備できるものと、事前に準備できないものがある。事前に準備できるものといえば、例えば地震が来た後の今指定している避難所を、防災訓練等で使っているが実際にそこに避難したら、どういう生活になるのか体験会をしたらどうかとの話が一昨日の市政懇談会の中でも出た。なかなかどういう形にしたらいいのか分からないが、非常に大事なので、例えば今防災士と言われている方を市内で養成させていただいている。資格を取るためのいろいろな援助もしている。そして防災士の資格を取った方が、次の防災士を育てるということで専門的な知識を持った人を増やすことがこれから大事である。それから市議会からも御質問いただいているが、子どもさんの時から、ジュニア防災士の的な防災教育をやるべきでないかと思っており、できることを今やることで起こった時に少しでもあたふたしないことが大事ではないかと考えている。それから台風等についても、以前に比べて時間雨量が非常にたくさん降り、かつ長く続くこともあるので、自分が住んでいる所の土地の状況や、今日も小田支会の方からもおいでしておりますが毎年香川大学との協力の中で、現地でこの地形はこういう特徴があると、そういうことを学習している。それが全てではないと思うので、それぞれの地域の中で防災訓練等を通じて、現状がどうなっているのか何らかの形で知識を高めることが必要ではないかと思っている。特に備蓄品が、昨日県議会の補正予算の中にも、例えば防災のトイレをするための補正予算が出ていたと新聞にも載っていた。避難所で生活するための必要なもの、特にトイレ、食べる、飲むことも大事だが、排泄をどうするのかというのは非常に大事だと言われているので、そういったことも含めてこれから対応を進めていきたいと思っている。それともう一つは、直接死にならないた

めに皆さんが一日の中で長いこといる所を頭に描いていただいて、そこにいる時に地震が来る可能性が高い。それがもし御自宅であれば、耐震性を診断してもらったり、必要であれば改修してもらったり、全部が補助金でまかなえないが診断する場合、耐震工事をする場合には補助金の中ではかなり手厚い補助制度を持っているので、自主点検を行う場合、いつ建ったかというのは目安にはなる。確か昭和56年だったと思うが、その時に耐震基準が変わってそれから後に建てたのは大丈夫だろうと言われているが、能登とかそういうのを見たら、その後建ったものも被害を受けているし、逆にその前に建ったものも平屋を中心に被害を受けていない。だから単に目安は目安として、防災対策、減災対策の基本ではないかと思うので繰り返しになるが、まず耐震診断、耐震工事、そしてそこで直接の被害を受けなかった方が避難をする時に関連死をしないように、次はどうするのか。そうした時に避難所に集団で避難すると、今はきちんと段ボールベッドとか、パーティションでプライバシーを守ろうとしているが、それではうまくいかない方がいる。今一度、国が言っているのは自宅避難ということで、御自宅がいろいろな条件で残った場合、自宅で生活をしてもらい、避難所と同じような支援をする。少し離れた所に御親戚や、知り合いがいる場合は、そこへ避難をするということで個別的にいろいろな問題を抱えている人が、全て同じ避難所の中で集団生活するのが非常に難しい。御自分の家の状況を調べてもらい、避難をする時に避難所しかないのか、親戚や知り合いの所もあるのか、これからそれぞれの自主防災組織の人とも話をしながら、危機管理課を中心にやっていきたいと考えている。

○意見交換

【小田支会】

避難の時に自主避難は段階的に避難の割合が決まる。最初の段階の時に避難した人は食べ物とかは全部自分で持ってくると、それを何か少しお茶を飲めるとか、お茶は飲めるのかも分からないが食べ物とか最初からその段階では何もない。その後の強制避難の時は、市から出すとかその辺の振り分け、対策をどうにか考えていただけないかと思っている。

【市長】

避難も今言われたように段階があると思う。食物等を用意してもらおうようなそんな悠長なことを言っていられないような避難と、台風のように今晚来ますよと言った時に来てもらう場合があり、後者の場合に、持ってきてくださいということでお願いしていると思う。御自分でできることについては協力をしていただかないときりがないというのか、公が担う役割があるので、できればそういった所へ人もお金も使いたいので、可能な方については、例えば最初の自主避難の場合は飲み物、食べ物を御用意いただいたらと思っている。ただ個別的にそれができないというような事情がある場合は個別に御相談をいただいたらと考えている。

【鶴羽支会】

質問は2点あり、一つは今年1月に能登半島地震があり直後に津田出張所に行く機会があった。津田出張所は避難所に指定されている。被災して2・3日経ってから避難所の様子をニュースで見た。簡単に言うと体育館で雑魚寝状態の映像を見て衝撃を受けた。いろいろな所で東日本大震災以降は、その後も災害が多発しているが、地震にしても風水害にしても一定のノウハウがあるのかと思っていたら雑魚寝状態なのにショックを受け、津田出張所でここは避難所に指定されているが、どうなのか窓口の方に聞くと、危機管理課の方に電話で聞い

たが、パーテーションや、簡易ベッドを準備していますと。どのくらいの数あるか聞くと300とその時に言われた。300で市全体ですかと聞くと、それを分けると言ったので、ちょっと絶句した。やはりこの話を帰って自治会や、他の会とかで周りの方にお話したら、一定は自分で何とか持っていかないといけないことになる。例えば、毛布のような防寒、キャンプ用などマットであるとか、そのくらいないと駄目だなと。もちろん予算の関係があるので、さっきの食料の話もそうだが、準備できると思わないが市側でも努力していただきたいということが一つと、もう一つは、先週自治会で防災訓練をやった。地震を想定した避難訓練と消火栓訓練のこの二つでやったが参加が、毎年、ちょっとコロナで途切れていたが、毎年やるとだんだん、ちょっと寒かったので、高齢化しているのでみんな表に出たがらないので参加者が少なかったが、その時思ったのが、確か県の消防本部の近くに防災体験センターがあったと思うが、以前テレビで防災の番組を見た時に、自治会対談では、体験ツアーを組んで、実際体験して、地震と火災が主であるが、体験してもらうことによって防災意識を高めようという良い取り組みだと思った。ただ、そのためには移動の手段や、行き帰りの交通手段、それから途中で時間もかかるので、食事か休憩が必要だろうと思うので、もし自主防災会が計画した場合の援助の検討をお願いしたい。それと、教育長さんがおられるので、もう一つ、学校メンバーで、もちろん防災教育をしていると思うが、我々自治会の立場から言うと、子どもたちの命、自分たちの命ももちろん大事だが、子どもたちの将来がかかっているので、そういう場合の事も想定して、周りの自治会で、いざという時には連携ができないかと思うので検討をお願いしたい。

【市長】

最初の、例えばいわゆる避難所へ行った時の避難生活の質であるが、質も大事だが、まず必要量と備蓄数が全く合わないのでは困ると考えている。これも県が、例えば南海トラフの地震が来たら、家屋がどの程度倒壊して、そして避難所に何人ぐらい行くのかを想定し、その想定の中の何割くらいはそこへ行くだろうという前提で、段ボールベットはどのぐらいいるとか、テントのようなもの、例えば、ワンタッチテントで周りを囲むような中で過ごしてもらうとか、そういったことを考えているが、おっしゃるように今の数が足りているのかと言えば足りてないと思う。ただ、どこまで数を準備するのは、もちろん予算の事もあるが、それが本当に現実的に役に立つ数字か誰にも分からなくて、今、石破総理大臣になったので、特に防災については力を入れたいと、先週国会の中でおっしゃっていた。雑魚寝をしているような避難所は日本だけだということを、どこかでお話ししたのを聞いた。それで、組織も防災庁など、独立したものを作って、量も質もまかなえるような防災対策をしたいとおっしゃっていたようですが、ただ、どこで起こるか分からない、どのぐらいの人数分がいるというのは分かりかねるので、まずは御自分の所で最低限の食料、最低限の水、それから、避難をする時に持ち出すもの、そういったものをお願いしているが、なかなか香川県の場合は起こる可能性が少ないと思っっている方が実際多い。それはもうちょっと意識するよう啓発をする我々の責任でもあるが、まずはもう少し、全てとは言わないが、今よりも数を増やす、そういったことを具体的に考えていきたいと思っっている。その一つとして、防災倉庫のようなさぬき市中のものが、そこに全国から応援物資が来た時に、そこで貯めておいて、そこから各所へ運搬する防災倉庫を規模の大小や、場所をどこにするかも難しいので、山手であっ

たら大丈夫かと言えば場所による。海の方で言うと、津波の心配や浸水想定区域に作るわけにいかないとなると、今その場所を検討しているので、もう少し 100 パーセントとはいかないがぜひ御意見にもありました。御自分でできることについては、できるだけ協力してもらおうということも前提に、私どもも公助というのか、役所としてしなければならない防災対策を今以上に、検討していきたいと思う。それから防災訓練は訓練ということなので、緊張感がどうしても大きく湧き上がってこない。今はまだいいかと思う人が多い。本当に起こった時に対応するためには、やはり御家庭の中で毎日とは言わないが、一度家族で夕食を食べていただく時にでも話してもらって、もし地震があったら一緒には逃げられないから、どこへ行くか、行った所にお互いの情報交換する時に、スマホを持っているから大丈夫というのは当てにならない。災害時にスマホは使えない場合の方が多い。そうすると、そこへ行った時の情報を市の方でどこか集約して、大山のおじいさんが今ここにいるというのを、家族が見て、子どもがあそこにいる、おじいさんがあそこにいる、それだけで精神的に安定すると思うので、何とか参加をしてもらおう動機づけを、子どもさんみたいにこれあげるから参加してというわけにはいかないの、できるだけ意識を高めるということをお願いしたいと思う。学校の方は教育長から話してもらおうが、学校で被災することがある。学校へ行っている時に、例えば地震が来てそういった時のために、当然学校の先生と保護者だけでなく、地域の自治会の方と、日頃から防災訓練する時に多分声かけはしていると思うが、実際どうなるかというのは検討する余地があると思うので、教育長の方からひと言お願いします。

【教育長】

地域の皆さん、自治会、また支会の皆様方には、日頃の学校現場で子どもたちの登下校の安全な見守りや、またいろいろな授業の中で御支援、御協力をいただいている。大変貴重な御意見をいただいたと思う。学校現場の中では、日頃いろいろと訓練を、防災訓練等と地震がある時はどうするかというような訓練を当然だが行っている。そういった中で、学校現場では、コミュニティスクールということで、地域の皆様方のお力を借りながら、共に学校現場を育てていこう、また発展させていこうという取り組みを行っている。まだまだスタートしたばかりで十分な発信ができてない部分があるが、どうしても皆様方のお力を借りないと、学校現場が回っていかないという状況が実は出てきている。そういう中で、特に地域との連携というのは御提案があったが、本当に重要な話であり、学校現場も地域の皆様と共に進めたいというような所で、今後、市長さんから言っていたが、防災訓練等の時に地域の方と共にそういったことをするとかを含めて、これからも学校現場といろいろと協議しながら、地域の皆様の力を借りていきたいと思っている。

【鶴羽支会】

先ほど市長さんがおっしゃられた、動機づけ、それと気持ちを上げて、やらなければいけないという気持ちになるような、イベント的と言ったら語弊があるかもしれないが、自治会でも企画していきたいと話が出ている。それと、子どもに関係する話で、ある団地で毎年夏に防災親子キャンプに取り組んで、避難所的な体験をするそうだが、そこでは水が限られていて、携帯ガスコンロしか使えない。そういう状態で食事を作って、みんなで食べるとか、そういう体験もしている所があるのでその程度だったら、多分、学校と地域が協力すればできると思う。

【志度支会】

市長さんが、大きな倉庫を作られるという話をされたが、補助金等で自由に使えるお金が、もし市にあって、大きな倉庫を作ることになれば、今現在、防災関連備品が市役所の倉庫の中にあり、実際、津波が来た時に使えるのかと思ったりする中で、大きな倉庫を作って安全な所に保管をしようということだと思うが、もし自由なお金で大きな倉庫を作るのであればそのお金で、今言われた段ボールベッド等を買われて、それを既存の倉庫のような所で小分けにしておく方が、実際のお金の価値というか使われ方でしたらいいのではないかと思うがどうか。

【市長】

自由なお金はない。私が言いたいのは、国が、倉庫を作る場合は、特にいろいろな事を配慮してくれるので、それを利用したらいい。今言われたように一番いいのは、各地域に必要な分だけを近くに持ってもらったが一番いいが、それもいろいろな事を聞くと、例えば、学校の体育館に置くということになると、置き場が十分でないとか、普段、それが邪魔になるので、別に置くためのものがほしい、そういう要望を聞く。いずれにしても先ほど話したのは、救援物資が来た時に、被災者へ届かない例が全国でたくさんある。それを減らすために、救援物資はそこへ行って人力で運ぶのではなくて、機械を使った出し入れができて、しかもどこに何があるかを管理できる。そういったものを、国の制度を使って作れたらいいなと。ただ、それをしたからといって、言われたように、各地域のことを考えてないわけではないが、並行して全体と個々の事をうまくバランスを取るといいうのも防災対策で必要と思うので、自由に使えるお金ができれば最優先で、そうしたことに取り組んでいけたらと思う。優先順位をつけてやるが、最後は家族単位、自治会単位とか、そのような身近な所で動けない限り、国、県、市が偉そうなことを言っても、末端の所までできないのであれば、絵に描いた餅、宝の持ち腐れになるので、防災対策こそ、現場が一番大事、個人個人に応じた対策ができる事を忘れずにやっていきたいと思う。

2 環境衛生について

○市長回答

これについては、書いているようなことがいろいろな所で起こっている。一つは海岸では、台風等により漂着するごみが非常に多い。現在漂着するごみの中にペットボトルとかが沢山あることをなくすことから社会を正していかなければならないが、現実がそうなっている。いろいろな、木とかが流れてきて、例えば、漁港でそれが集積すると、漁船が出せないといったことも起こっている。そういった意味では、津田の砂浜を、津田の松原というのは、さぬき市の目玉の一つなると考えているので、美しいまま保全する必要がある。それから山の方へ、不法投棄する人がおりそういったことも後を絶たない。そういったことに対してどうするのか。また、動物の話だが、捨て猫、捨て犬の糞尿や鳴き声で迷惑しているという地域の話がたくさん聞く。それについて、例えば地域猫という制度を使う、去勢をして増えないようなことを役所もやっているが、なかなかそこまで行き渡っていない。いずれにしても、そこで住もうと思った時に、嫌だなという事、特に環境面でやらなければならないことがたくさんあり、そういう趣旨での御質問であると思う。特に外国の方が、習慣が違うので自分

の国では当たり前ということで、ごみ等の取り集めが十分できてなくて、しかも言葉の壁があり、例えば立看板を見ても日本語で書いてあるので理解できないという話もある。そういった意味では、行政の方でもこれからは外国の人がだんだん増えていくのは、日本全体で言われている。ある統計でいうと、2050年には住民票に登録してくれている人の1割は外国の人ではないかとなっている。ちなみに、さぬき市は今4万4~5,000人いるが、外国の方で住民登録をしている人は700人くらいである。もし1割になれば、それが4,000人とかになる。当然その時には、さぬき市の人口は2050年であれば、今の国立研究所の発表では2万人くらいになる。そうなったとしても、2千人以上の方が一緒に生活をする。主には、東南アジアの方で、今一番多い国は確かフィリピンだったと思う。2番目がベトナム、その次がカンボジア。そういった方と環境だけではなくて、日頃の生活の中で、共に生きる地方を作っていかなければならない。そして、それがうまくいけば、人口減少問題の対応策の一つにもなる。日本人が減っている中で、外国の人が来て、一緒に生活してくれたら人口という面ではプラスである。ただ、いろいろな歴史とか、習慣が違うので、地元の人たちとうまくいくような仕組みを作らないと、何か差別の元になるということも考えられるので、環境問題を考える時の共生社会は、多様な人が住む事を前提にしている。その多様な人が一緒に住むためには、お互いを認めあわなければならない。お互いが支えあわなくてはならない。そして、お互いが必要としあわなければならない。もう一つ、これが大事だと思うのはお互いが許し合うこと。少々言葉が違って、生活の習慣が違って、一人の人間としてお互いが認め合ったり、支え合ったり、必要とし合う、時には許し合う、そういったこともこれから住民の方にはお願いするとともに、行政がこういうことをすることによってそれがさらに進む、そういったものをやはり忘れてはならないと思う。直接の環境の問題と離れてしまったが、多くの人に住んでもらうためには、日本人だけでは数がどうしてもどこの地域も減少する。それで、外国の方とうまくやる。そしてトラブルがないような形での共生をやっていけば人口減少の一つの対策になるのではないかと思う。いずれにしても、例えば不法投棄とか、誰の責任でもないが自然の力で環境が悪くなる、そういったものをどうするのかというのは、非常に頭の痛い問題であるが、これはさぬき市だけではなかなか対応ができないので、国や県にも協力をいただいて、環境衛生について考えていきたい。そうすることが、住みやすい地域を作る、それだけでは駄目だが、一つの方策になるのではないかと思っている。

○意見交換

【小田支会】

津田海岸とかいろいろ海岸、こちらも興津海水浴場があり、毎日高松から一人ごみを拾いに来てくれている。ボランティア袋にだいたい、4つか5つくらい。この前ボランティア袋がどこに行ったか分からなくなったが、たくさんくれないと言っていた。言ったらくれると思うが、私は支会で掃除した袋があったので、取りに来てもらい20ぐらい渡した。今日も朝ごみ出しに行ったら出して来ていて、毎日ボランティアで来ている。高松市のごみ袋に入れて出した時もあるので、それを入れ替えて出した。以前から、生活環境課から簡易の防犯カメラをお借りしている。不法投棄があるので設置しているが、電池式のもので電池がどうも持たない。何か動いたらすぐに反応して一週間くらいで8本くらいが終わる時がある。市長にお願いしたいのが、全部の支会に対して電気を引いたものの防犯カメラ、重点的に何台

か。防犯カメラがほとんどさぬき市にないので、防犯カメラの設置をお願いできないかと思う。防犯カメラも、この間警察の方とも話したら、生活安全課で何割かの補助が出るそうである。その辺も、市が警察と話し合っていて、電気代とかは支会の方でみられるのではないかと。防犯カメラは、すごく大事である。県の環境の管理人を仰せつかっていて、報告するように、絶対自分で現場に行かないようにと言われるが、夜中の3時4時にだいたい決まった人が軽トラで来る。報告しても行ったらもういない。自分で行かないように言われるが、やはり見に行く。だけど怖いので、それが防犯カメラに映っていればと思うので、きちんとしたずっと映るような防犯カメラの設置をお願いできないかなと思う。

【市長】

確かに、防犯カメラの効用というのは、例えば山の方でも防犯カメラを設置していると言っただけで、減ったりはするが何分箇所数が膨大になり、先ほどの話ではないが、自由になるお金がないさぬき市としては重点的な所で、絞ってするという事は可能だと思うが、それぞれ皆さん事情があり絞るというのは難しいかもしれない。ただ、本来は何か普通のモラルを持っている人であれば、ごみを公の場所に捨てるというようなことは、国民として情けないと思うが、ただ実際起こっている。今の防犯カメラが例えばもっと絞った形でできるものなのか、それ以外の方法も検討してみたい。目的は一つなので、わざわざ高松から何のメリットもないのにごみを集めるということを使命感でボランティアとしてやってくれる人との、あまりに差が大きすぎるので、なんとか良識に訴えたい。そして、防犯カメラがいいかどうか分からないが、個別に、不法投棄は犯罪なので取り締まりというのは、できるだけそんなことはしたくないし、防犯カメラの場合は、そうでない人の事も映ってしまうので、プライバシーの問題もあるが、現場の方から言わしたら、そんなことを言うような悠長な話ではなくて、こうした不法投棄を市で全部片づけができるのだったら方法を考えてほしいという御提案で、防犯カメラを全部に設置するのは、難しいと思うが、その方法についていろいろ検討をしたいと思う。

【小田支会】

ここに書いていた立看板、小田で市から2つくらいもらったが、設置した後にそこへ捨てていた。この看板を立てたらそこへ捨てるということがあった。

【市長】

もし、立看板を立てることで効果がある場合は、生活環境課へ相談していただければできるだけそういった対応をしたいと思う。

【鶴羽支会】

今年の3月に香川県議会で、琴林公園のリニューアルということで予算がついたという報道を見て、その後県の議会事務局からの資料を手に入れてみたら、琴林公園の中にドッグランと、キャンプ場の建設というのがあり、早速、津田の住民や自治会とか、連合自治会とかと相談して県との交渉に申し入れに行き、後説明会もあったが、結論から言うと9月だったかと思うが、県で正式に中止するとお知らせが来たと聞いている。そうであるならば県は1億3千万近い予算がついたという報道だったと思うので、県の予算ではあるがどういう使い方をするか、県が決めるのだろうがせっかく浮いたのであれば、松原の公園内のトイレの改修に使えないか。来年瀬戸内国際芸術祭がある。外国人観光客のお客さんも、たくさんお見

えになるかもしれないので、和式のトイレでは、おそらく苦勞をされるだろうと単純に思うので、もし、そういうことが可能であれば、県に迎え入れる、おもてなしの1つになるかと思うが、検討してくれないかと申し出をしていただきたい。

【市長】

先ほどお話しがあった琴林公園は、津田の松原という国立公園であり、県立公園のダブル指定を受けている場所である。それで、今年は、瀬戸内海が国立公園に指定されてから、90周年というメモリアルな年ということで、県が津田でいつも津田祭りの時に花火をあげているが、今年に限って3,000発、花火ができる予算を組んでいただいた。瀬戸内海が90年前に国立公園に指定された時は、余談になるが、旧長尾町出身の小西和という、平和の和と書いてかなうと読むが、その国会議員さんが瀬戸内海論という論文を書いて、瀬戸内海の素晴らしさを訴えた。それが一つのきっかけになり、日本の国立公園の最初の雲仙、霧島、瀬戸内海が指定90周年になった。その関係もあり、琴林公園をもう少し活性化したらどうかということで、県で今言われたドッグランとか、キャンプ場以外にパークレットというちょっとした屋根があり、そこでお茶を飲めるようなものとか、遊具を更新してもらう予算を付けていただいた。これについて、事前に市には御相談いただいてないこともあり、地元の皆さんは、ドッグランを作れば今でも散歩する人の犬の糞尿に困っているのに、それがますます琴林公園として良くないのではないか。それから元々キャンプを禁止しているのは、キャンプをする人が火を使うことにより、松が燃えたり、いろいろな苦情があったりということを県は知っているのかという、地元の方からの御意見を私もいただいた。県と話をしてそれについては、後の検討課題にさせていただいて、遊具とかパークレットのような地元の人も、それで人が来てくれたらいいのではないかということから優先してやりたいということになった。御質問の瀬戸芸とは直接関係ないが、琴林公園内にあるトイレは洋式が1カ所だけあるが、その1カ所だけで、もしいろいろな芸術作品を見に来てくれる外国の方に対応できるのかを検討している。もちろん、瀬戸芸との関係も強調して、県からも必要なお金を出してくれればありがたいと思っているが、さぬき市としても、具体的に芸術作品の設置場所が決まれば、そこへ来るお客さんのために検討したい。トイレ対策をしている所に、いろいろなインバウンドを含めた観光客の方が来てくれるのは、もう事実として明らかになっている。例えば、多和へ行く時に、旧多和小学校のトイレを、子どもさんが使うトイレを大人の方が使える豪華なものはいらないけれど、清潔感のあるトイレにしようということで改修した。結果、どんなことが起こっているかと言え、あそこに、道の駅ではないが、地元の人が産直の市を土日にしてはいるが、その時に来た観光バス、それから平日にしてない時でも、お客さんの方からトイレ休憩するのであったら、旧多和小学校のトイレにしてほしいと要望があるくらいトイレは非常に重要だと思う。今回、瀬戸芸が始まるのに合わせてトイレを作ることは難しいと思うが、少なくとも、こういう所では用を足したくないというのではなくて、海水浴に来られた方、瀬戸芸以外でも津田の松原に来られた人が安心して気持ちよく使えるようなトイレをどうするのかということについては、県の予算が余ったからするというのは、それとこれは別だと言われそうなので、それはそれで県が考えた方がいいのだが、トイレの整備についても県もぜひ考えてほしい。それで、財源については県にお任せするので、トイレの整備について県と協議したいと思う。

【鶴羽支会】

ついでに言うが、公園のいわゆる玄関口、道の駅、津田の観光物産センターがあるが、御存知のとおり老朽化している。瀬戸大橋がついた時にできたので30年以上になる。あそのトイレも、古いようでそこも含めて改善をしていただきたいと思う。

【市長】

道の駅は、今リニューアルする計画があるので、その時にトイレをどうするかというのを合わせて検討させていただく。

3 農業政策について

○市長回答

農業政策は、非常に幅が広くて奥の深い問題だと思っている。今、これから地方公共団体が取り組まなければならない項目で、いろいろな人が意見を言っているが、寺島実郎という日本総研の会長さんは、これからは3つの事が必要ではないかと言っている。1つが食と農。食べ物と農の中には漁業を含んでいると思う。2番目が、医療と防災。3つ目が、教育と文化。私も、特に教育・文化については、これからのさぬき市が、いろいろな素晴らしさを将来に伝えていくということで、先ほど言ったが、時の納屋とか、細川林谷記念館とか、四国霊場の上り三カ寺、それから津田古墳群とか、そういったものをまちおこしの1つのキーワードにしたいと思う。そして、医療と防災については、今日防災の話をしたが、医療については、市民病院が、なかなか皆さんの御期待に沿うようなことになっていないので、この4月から院長先生もかわりいろいろな取り組みをしている。また、一番目の食と農について、特に地方はこれから第一次産業を大事にしないと伸びていかないと私は思っている。特に農業の方は、今年はいろいろなことで米が少し高くなって、何か農業の未来が明るくなったように、誤解されている人がいると思うが、水を差すわけではないが、今年の米が高くなったことがこれからの農業の発展につながると私は思っていない。農業が本当の意味で、先ほどの環境を良くする田んぼダムという言葉もあるが、一定程度水を溜める、そういう水田があることによって環境というのは非常に、私は良くなると思っている。露地で作る米とか麦、そういったものが今非常に苦戦している。例えば、園芸というか、温室等で作るブドウのシャインマスカットとか、それからミニトマトとか、キウイなどが比較的、付加価値が高いので採算が合うが、露地で作る米とか麦は、なかなかうまくいかない。そこで何が重要かというのは、先ほどの話に戻るがやはり質の問題。消費者の人にもっといろいろなことを勉強させていただいて、値段だけでなく、食というのは安全性が大事だと。安全性が一番のポイントは、例えば、農薬を使わない食べ物とか、化学肥料をできるだけ少なくする。オーガニックと一般には言っているが、何とか若い人にしてもらえるようにしたいと思っている。別に若くなくてもやってくれる人が欲しい。農薬を使う、化学肥料を使うにはそれなりの訳がある。例えば、非常に手間が省けるというのか作りやすい。農薬を使うと、いわゆる害虫が少なくなった。それから、化学肥料を使うと、自然のたい肥を選ぶよりも、安いし、外国からのものを使えるので、経營的にはプラスだ。ただ、その影響というものが、食に対していろいろあると言われている。そういうことを消費者の人にぜひ分かっていただき、高くてもいいから無

農薬、化学肥料を使ってないものを選ぶということになれば、良いと思うが、やはり、私も含めて物を買う時に、一番関心があるのは、値段ということになるので高ければなかなか売れない。確かに、農業が環境保全とか、多面的機能を発揮していることで、地域の環境が良くなっているというのは、非常に大事なことだが、本来は農業で儲かって、環境にも反射的効果として良いというものではないと長続きしない。ずっと補助金を入れていかないと農業が続けられないというのは、いつかパンクすると思う。先ほど防災の所で石破総理の話をした。石破総理を持ちあげているのではないが、石破総理は、かつて国の農水大臣をしていた。私も県の土地改良事業団体連合会の会長をしていて、陳情に行った時にお話ししたことがあるが、石破さんは、日本の農業の事を心配されていて、このままで行くと、効率とかだけが先走って、瑞穂の国といわれた日本の素晴らしい農業がなくなるのではということをおっしゃっていた。私も全くその通りだと思う。私は今でもたくさん米を食べている。昔は、一人が一年間に一俵食べると言われたが、今は若い人に聞くと、炭水化物のお米はあまり食べず、米を食べると太るという誤解がある。米を食べるから太るのではなく、米の代わりに油等を多量に取るからであり、米をうまく使うとヘルシーな食事だということを、皆さんに分かってもらい日本の農業を支えてもらいたい。もう一つは、御出席の方は直接関係ない人が多いかもしれないが、有害鳥獣の猪、猿、特に、平地でも最近猪が出てきて悪さをすると聞いているので、うまく共存共栄できればいいが、これを防ぐためには侵入防止柵を作ったり、猟友会の皆さんにお願いして個体数を減らす、そういったことになるがやはり繁殖力が非常に強いので、猪がさぬき市で見えなくなったということは難しい。本来で言うと、山でいた猪が里まで降りてこないような工夫もいるだろうと思うが、そういったことが農業者の意欲を減退させないように、いろいろな制度があるので国の制度等を活用していただき、有害鳥獣の個体数を減らす。侵入の防止をする。そういったことを含め、そして、今農業に従事している人が全部、今後も農業をしていけるのかということも検討をすべきである。また、農業を職業としている人に、もっと女性が増えて欲しい。そういったことを国にも話をしながら農業について、漁業について、第一次産業をさぬき市としては大事にしたいと思っている。

○意見なし

4 公共施設整備について

○市長回答

公共施設の整備については、いろいろな所からいろいろな御意見をいただいている。一つは、これから健康に気を付けて過ごさなければならないのに、かつて志度にあった施設が閉鎖になった。津田にあったクアタラソも、これはどちらからと言うと経営が難しいということで閉鎖になっている。東かがわ市白鳥のようなプールを1カ所でも作ったらどうかとの御意見も今回いただいているし、私の所にも言ってきていただいている。トレーニングジムと言っているのかどうか、健康増進施設を、高松や東かがわ市に行かなくても、作ったらどうかということも、今後、市政の検討項目の中には入れたいと思う。また、大串半島、先ほど言った時の納屋は、今の所、多くの方に来ていただいているが、必ずしも足腰があまり丈夫でない人とか、お年寄りの方にとって、進入路が時の小径というのがあるが、石で作っている関係でなかなかそこが歩きにくいという御批判もいただいている。もう一つは、いつ行っ

でも満員でお目当ての食事が食べられない。一日限定何食ということで何度行っても、お目当てのものが食べられないという御意見もいただいている。進入路については、設計者ができるだけ元々の大串半島の姿に戻して、建物が自然の邪魔をしないよう、先ほど共生という話をしたが、自然と共生した建物にしたいという設計思想の中で、できるだけ人工のものは使わないということにしている。元々は、擬木で作っていた囲いも、今、草堤と言って土と草でしている。いろいろな御意見があると思うが、少なくともいろいろな方が行くのに不便だというような所については、市も、例えば、今の駐車場から芝生広場へ入る時に、時の小径に出なくて、もう少しならかな進入路を作るとか、そういう形にして、何回行ってもいいと言われるようなものにしたいと考えている。また、公共施設として、いつも話題になるのは公園の話で、さぬき市は公園が少ないという話になるのだが、数だけでいえば結構公園があるが、身近な所で子どもさんと一緒に行く公園も少ないし、一昨日も公園の遊具を子どもだけでなく、一緒に来た親やおじいちゃん、おばあちゃん等の大人も、例えば、ぶら下がったりできるような遊具を検討したらどうかとの御意見もいただいている。公園については、一番のネックは、作ることもだが管理が難しいので、例えば、管理を地元の方でいただけるような地域については、御相談いただければ、公園の必要最小限の支援をすることについては、いろいろお話を聞くようにと担当課には指示をしているので、適当な場所があり、地元で管理をしたいということがあれば、ポケットパークと呼んでいるが御相談をいただいたらと思っている。施設については、あった方がいいのは間違いない。でも、今の社会情勢はあった方がいいものにお金を使う状況にはない。なければ困るものを優先することになっているので、その辺りの価値判断は、こういう場を通じて協議をしていただいた上で、本当に微々たるものしかできてないという、反省はしているが、御相談をいただいた事については、小さいことでも一つずつ解決していきたいという気持ちだけは、お金はありませんけど、十分持っているので、御意見を賜ればありがたいと思っている。

○意見交換

【志度支会】

11月2日に志度地域での活性化事業で、音楽ホールを使わせていただいた。市長さんにも、おいでいただきありがとうございます。その日は悪天候で、非常に大変だったとの思いをスタッフとして感じているし、駐車場、最初の文理大の跡地利用ということでも、引っかかる問題かと思うが、来年の1月くらいから音楽ホールもお休みして改修するかと思う。いくら音楽ホールをきれいにしても、立派にしても、今現在の中四国で一番音響の良いホールであっても、駐車場がなければ値打ちがないが、今ある駐車場は、文理大からお借りしているものと理解しており、何も立派な駐車場にしてくれと言わない。文理大からお借りしている今の駐車場を、せめてアスファルトに、別にきれいに囲ってほしいとか、線引きをしてほしいと言わない。あの中に入った車がスリップをして、奥まで使えない事情がある中で使わせていただいている。せめて人が来た時に、ここに駐車してくださいと案内できるような、我々も、これくらいあればいいと思えるような、せめてそういうことを、市として考えていただきたいがいかがか。

【市長】

駐車場がこれまでも、これからも非常に必要で不足しているのは、おっしゃるとおりだと

思う。そして、特に雨降り対策等でアスファルト舗装してほしいという要求がたくさんある。ただ、文理大に、無理を言って使わせていただいているので、アスファルト舗装は、やってしまうと基本的に元へ戻す時に全部現状復帰しなければならない。また、アスファルトの舗装には、かなりお金がかかる。そういったこともあり、なかなかできていないがおっしゃるように雨降りの時に、ビチャビチャになり、車が汚れた場合洗えばよいが、例えば靴、衣服が汚れてもうあそこであったら、雨降りの日は行きたくないということも聞く。今要望されたことと、少し一致するのかもしれない。音楽ホールの駐車場をどうするのかということを実際に考えるべきとの御提案だと思う。また、費用対効果を検討しないといけない問題でもあるが、音楽ホールの駐車場が今のままでは、いくらホールが良くなっても、来てくれるお客さんにとって、駐車場がネックになり集客力が落ちるとい御指摘だろうとも思うので、駐車場をどうするか検討させていただきたい。

【志度支会】

駐車場を文理大から借りられる約束がされているのか。少し不安になるが。

【市長】

当時、文理大の好意で借りているということで、借り続けられるようにやり取りはしている。使えなくなると、アスファルトどころの話ではないので、最低限使えるような方法で考えたいと思う。ただ、約束をしているものではないので、その辺は私の方から何とも言えないが努力をする。

【小田支会】

空き家が非常に増えてきた。それは仕方がないことだが、屋根が抜けて台風が来たら、瓦が飛んで近所に迷惑をかけること等がある。市に壊すとか何かできないか尋ねたことがある。家の持ち主について、遠方にいるということで、なかなか返事がないと言って、税金は、固定資産税をもらえるが、納めていないケースもある。必ず全部固定資産税が取れるという訳ではない家らしいが、台風等で今現在も瓦がたくさん落ちていて、屋根が抜けている。撤去を個人の所有であるから勝手に、市ができないということもあろうかと思うが、何らかの善処をしていただけたらと思っている。

【市長】

空き家については、香川県自体も、空き家率が全国でも高い。さぬき市も高い。いたる所で空き家が出てきて、空き家を有効活用するというので、空き家バンクに登録して買ったり、借りてもらえるよう努力していただいているが、空き家になったには、空き家になる理由があり、その理由が必ずしも、解消できていない部分があって思うようにしていない。ただ、心配なのは周辺を歩いている人が、空き家の瓦が当たって怪我をすとか、それから環境面で、清掃ができていないので、地域の人が清掃しても、そのの所がそのままになっているので非常に困っている。国も法律まで作り、一定の危険を伴う危険空き家と認定できれば、場合によれば代執行で市が取り壊して、費用を持主等に負担してもらうことも可能だが、日本国憲法というのは、いろいろ批判があり、良いところもあるが私有財産制を絶対の原則にしている。ですから、基本的には、国であろうが、県であろうが、市であろうが、個人の財産には、一切触れては駄目だと。例外的には公共の福祉に反することや周りの人に被害を及ぼすような恐れがあった時は、法律を作って対応をしている。今言われたものが、その法律で

定める特定危険空き家に該当するかどうか、今、資料がないので分からないが、いずれにしても通行に支障があり、瓦が落ちてくることを心配しながら通るような所については、制度を利用して対応するにはしているが、個別に御相談していただき、可能なものについては対応したいと思う。それともう一つ、これからの空き家対策として、個人的な考え方が、大阪あたりに住む50前後の方で、お一人で暮らしていて、お金にはそんなに困っていない方に、例えば空き家投資と勝手に言っているが、昔でいう別荘を、例えば小田であれば小田の空き家をいろいろ市も協力して、改修し、安く買うという空き家投資をしませんかと呼びかける。さぬき市には神戸であれば2時間、大阪でも3時間くらいで来られる。週末毎とは言わないが、例えば夏間に来て、周辺の畑で家庭菜園ができて、パートナーがいないのであればお友達と一緒に別荘として使いませんか。場合によれば、友達の夏のリゾートの別荘として運用したらどうかと夢みたいな話を私としては考えている。これから大事なものは、今ある物をすぐに新しいものにしようということでは長続きしないと思う。もっともっと利用しようと思えば、利用できる物がたくさんあるので、空き家もそういうスタンスでこれからも取り組みたいし、危険なもの、被害を与えるものがあれば、それは早急に対応しないといけないと思う。都市整備課とも相談して、相談があれば考えていきたい。

【小田支会】

先ほどの空き家で、小田の農業に来ている若者が、夫婦で来られて家を探しており、2か所ぐらい紹介したが、持ち主と個別に話して構わないのかと言っていた。両方ともお金が高いと。市に4年か5年かの補助金か何かで農業体験ができる制度があるが、すぐに農業体験は入れないと。昨日電話があり、その人がやはり家がほしいということで1件空いているから聞いてほしいと言われ、聞くと売っても良いとの事だったので、直接話すという話になり今後話が進むと思うが、市の空き家対策で登録していることが、有効に機能しているのか。あまり機能してない気がする。市が空き家を積極的にここが空いているとか、もっとアピールして来た人に分かるようにしてほしいと思っている。

【市長】

空き家のカタログみたいなものを市が作るのには行き過ぎかもしれないが、こんな空き家があると民間の不動産屋さんであればしていることを行政もする必要はあると思う。来るのを待っているだけでは、これから空き家を売ったり貸したりすることは難しい。具体的にどうしたらいいのか名案が浮かばないが、先ほどの夢物語のようにカタログを持って行って、それで一つ売ったら、売った分の何割は、売った人に還元する。公務員はできないが、そういうことぐらい考えないと従来の行政の制度の中では難しいと思う。これだけ時代が変わっているんで何か新しい取り組みをしたい。いずれにしても、せっきくのいい話がミスマッチでうまくいかないのはもったいないので、個別にまた御相談していただきたい。

【小田支会】

不動産屋に頼んでいるケースも何件もあり、不動産屋が入ったら手数料で金額が上がってしまい、辞めるということがある。個別に話して手続きだけしたいという人が今、3件くらいまだ来ているので、また御相談させていただきたいと思う。

(閉会)